

け、人工的に孵化させて海へ戻すという方法である。買い取るのではなくゆずり受けることによって、問題意識を共有することが、この活動のひとつの目的である。

利用の段階では、新薬を開発するために植物から薬効成分を抽出する技術や、バイオテクノロジーを利用した園芸植物の品種改良技術等が、欧米から導入されている。これらは生物多様性保全につながる経済的インセンティブとして、重要視されている。

問題点は、高度な技術の蓄積がありながら、それらはごく一部の国や研究機関に適用されているにとどまり、その恩恵を享受できる地域がごく限られているという点である。中米域内でも、コスタリカやパナマなど、研究機関のある国ではそれらが中心となって技術の普及が進んでいるのに対し、それ以外の国々では保全区を設定したものの、管理計画が策定されていないものが多いという状態の所もあり、両者の間の格差が大きい。地域として自然環境保全を進めていくためには、その格差を是正し、地域内の国々ができるだけ技術を共有し、歩調を合わせていくことが重要であると考えられる。

3 - 4 自然環境保全の重点地域

(1) 自然環境保全の重点地域

CCAD の作成した“ Áreas Protegidas Prioritárias ”によれば、図 3 - 11 に示す 11 の地域が、優先度の高い地域としてあげられている。それらの各々について、以下に述べる。

1) マヤ生物圏保護区 “ Reserva de la Biosfera Maya ”(メキシコ、ベリーズ、グアテマラ)

マヤ生物圏保護区はペテン県にあるグアテマラで最大の保護林であり、210 万 ha(エルサルバドル共和国の面積とほぼ同じ)の面積をもっている。マヤ森林の中心部であり、メキシコとベリーズにわたる広大な地域である。区域内には 200 以上の遺跡、独特の生態系、そして世界的に知られた動植物相を有している。同保護区はまた、UNESCO の生物圏保護区としても世界的に認知され、文化遺産(ティカル)1 か所と、世界的に重要なラムサール湿地(ラグーナ・デル・ティグレ)1 か所を含んでいる。

同保護区はグアテマラ議会政令 5-90 によって法的に指定され、管理を行うためのゾーニングが設定されている。コアエリアは保護区の中心部であり、原則として保全と研究のために供されている。多目的ゾーンでは持続可能な資源利用活動を推進する。多目的ゾーンの大部分は地域住民の居留地として、厳格な持続可能管理計画の下に管理されている。区域内では持続可能な形で、木材・樹脂・木葉・オールスパイスが採取される。バッファゾーンは、マヤ生物圏保護区の資源に対する圧力をやわらげるための機能をもっている。同保護区は国家保護区委員会(Consejo Nacional de Áreas Protegidas : CONAP)によって管理されている。

同保護区内には、ティカル国立公園(Parque Nacional Tikal)、エル・ピラール文化遺産

(Monumento Cultural El Pilar) ヤーハ・ナクム・ナランホ自然遺産 (Monumento Natural Yaxha-Nakum-Naranjo) シエラ・デ・ラカンドン国立公園 (Parque Nacional Sierra de Lacandon) ラグーナ・デル・ティグレ国立公園及びビオトープ (Parque Nacional y Biotopo Laguna del Tigre) セロ・カウイビオトープ (Biotopo Cerro Cahui) ミラドール・リオ・アスール国立公園 (Parque Nacional Mirador Rio Azul) 及びウァハトゥンの集落が含まれる。

中米北部に位置する同保護区は、乾燥地帯に当たるため山火事の影響を受けやすい。2003年3月には、保護区のなかでも最も重要な位置を占めるラグーナ・デル・ティグレ付近で大規模な山火事が発生し、地域の生物多様性に重大な損失を与えたことが報じられている。4月に入っても、同保護区からユカタン半島北部、そしてニカラグアにかけての各所で山火事が発生している。この山火事による白煙は、人工衛星から撮影された写真にも明瞭に写っている (図3 - 12、CCAD Web サイト)。山火事による同地域の生態系への影響は甚大なものになると推測されるため、保全を進めるにあたっては、山火事に対する何らかの対策を考えるべきであろう。



図3 - 11 優先的保全地域

出所：CCAD のプレゼンテーション資料

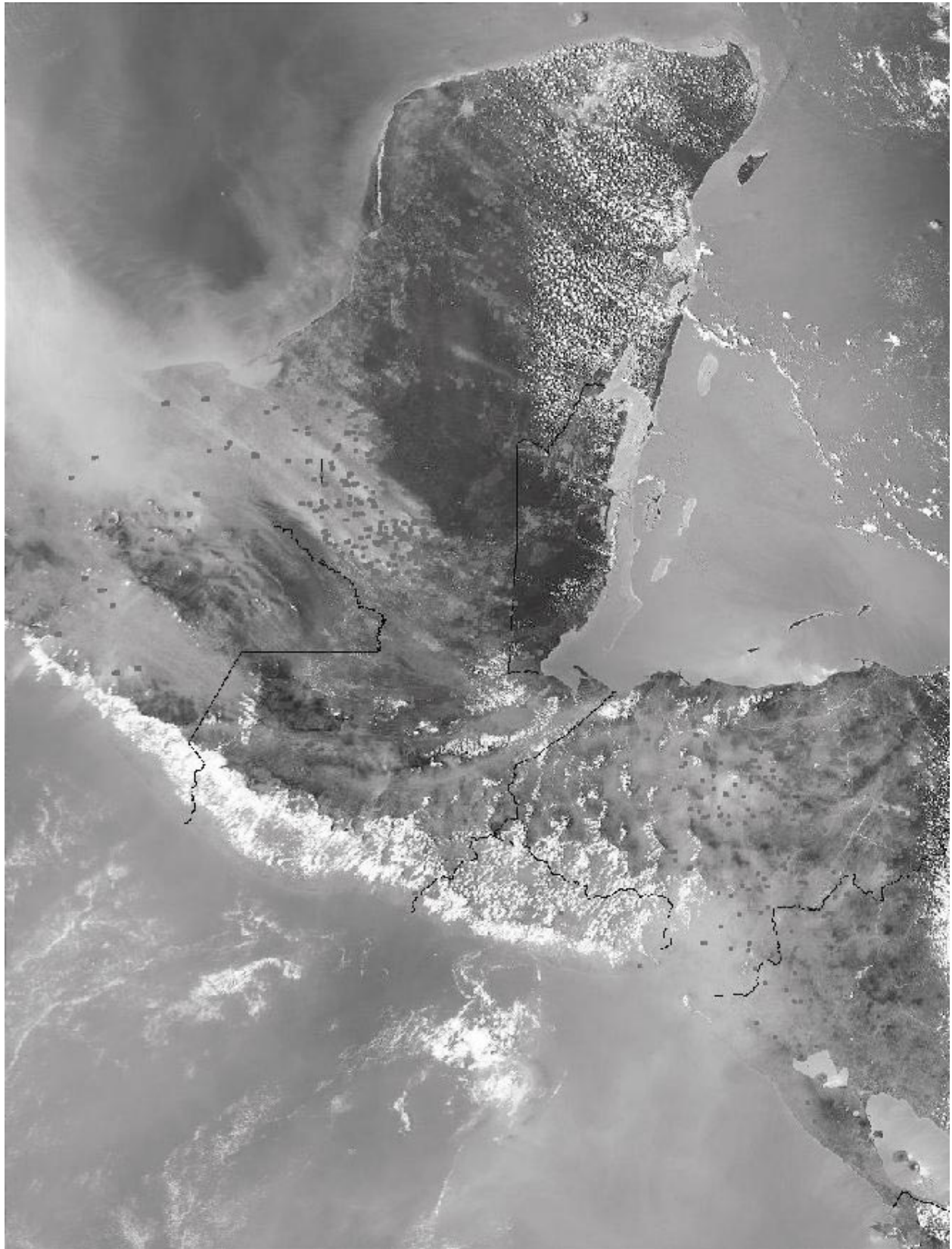


図3 - 12 中米北部の山火事(2003年4月20日)

出所 : CCAD のホームページ <http://ccad.sgsica.org>

2) ホンジュラス湾 “ Golfo de Honduras ”(ベリーズ、グアテマラ、ホンジュラス)

ベリーズ、グアテマラを中心に次のような数多くの保護区や国立公園が設定されている。

ベリーズ

コックスコーム流域野生生物サンクチュアリ (Cockscomb Basin Wildlife Sanctuary)

マヤ山森林保護区 (Maya Mountain Forest Reserve)

ブレードン自然保護区 (Bladen Nature Reserve)

スワセイ・ブレードン森林保護区 (Swasey Bladen Forest Reserve)

コロンビア川森林保護区 (Columbia River Forest Reserve)

モンキー・キー森林保護区 (Monkey Caye Forest Reserve)

ラフィング・バード・キー国立公園 (Laughing Bird Caye National Park)

シルク・キーズ/ グラッデン・スピット海洋保護区 (Silk Cayes/Gladden Spit Marine Reserve)

ディープ・リバー森林保護区 (Deep River Forest Reserve)

ペイネズ・クリーク国立公園 (Payne’s Creek National Park)

リオ・ブランコ国立公園 (Rio Blanco National Park)

アグアカリエンタ・ルーア野生生物サンクチュアリ (Aguacaliente Luha Wildlife Sanctuary)

サポディージャ・キーズ海洋保護区 (Sapodilla Cayes Marine Reserve)

マチャカ・クリーク森林保護区 (Machaca Creek Forest Reserve)

ポート・ホンジュラス海洋保護区 (Port Honduras Marine Reserve)

サルストウン - テマシ国立公園 (Salstoon-Temash National Park)

グアテマラ

サルストウン川特別保護区 (Área de Protección Especial Rio Salstoon)

サンタ・クルス山脈特別保護区 (Área de Protección Especial Sierra Santa Cruz)

マナビケ岬特別保護区 (Área de Protección Especial Punta de Manabique)

チョコン - マチャカスビオトープ保護区 (Chocon-Machacas Biotopo Protegido)

ドゥルセ川国立公園 (Parque Nacional Rio Dulce)

サン・ヒル山地湧水保護区 (Reserva Protectora de Manantiales Cerro San Gil)

ボカス・デル・ポロチク野生生物レフュージア (Refugio de Vida Silvestre Bocas del Polochic)

シエラ・カラル特別保護区 (Área de Protección Especial Sierra Caral)

シエラ・デ・ラス・ミナス生物圏保護区 (Reserva de la Biosfera Sierra de las Minas)

モンターニャ・デル・エスピリトゥ・サント特別保護区 (Área de Protección Especial Montaña del Espirito Santo)

ホンジュラス

ヘアネッテ・カワス国立公園 (Parque Nacional Jeanette Kawas)

イソボ岬国立公園 (Parque Nacional Punta Izopo)

クスーコ国立公園 (Parque Nacional Cusuco)

テヒグア野生生物レフュージア (Refugio de Vida Silvestre Texiguat)

当該地域については、地域の NGO が TRIGOH (Trinacional para la Conservacion del Golfo de Honduras) という連合体を作って保護活動に当たっている。

3) トリフィニオ “Trifinio” (グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル)

エルサルバドルの北端に位置し、グアテマラ、ホンジュラスと国境を接する山地である。エルサルバドル側の一角のみがモンテクリスト国立公園 (Parque Nacional Montecristo) に指定されている。モンテクリスト国立公園は 1,973.465ha の面積を有し、標高は 760m から 2,418m にわたっている。

植生は矮性林、雲霧林、マツ・カシ林、そして落葉低木林の 4 種類がある。多様な植物相には、プロメリア (パイナップル科) の多数の種や国内でも有数の多様性をもつ豊かなラン科植物を見ることができる。Hampea reynae や Quetzalia reynae 等の新種も発見されている。マツやカシ類も多い。ツル植物や木生シダ類は危機的な状態にある。

動物相については、同地域のような環境にのみ生息するケツアル (Pharomachros mocinno) や、チャチャラカ・ネグラ (Penelopina nigra)、グアルダバランコ・グリス (Miadestes unicolor)、タラポ・デ・アルトゥーラ (Aspatha gularis : 和名アオノドハチクイモドキ) などの鳥類が見られる。同地域はピューマ (Puma concolor) やクチェ・デ・モンテ (Tayassu tajacu : 和名クビワペッカー) など、絶滅の危機に瀕した動物たちの最後の砦ともなっている。両生類ではサンショウウオの一種 (Bolitoglossa conanti) やラナ・デ・ビドリオ (Hyalinobatrachium fleischmanni)、爬虫類ではドラゴンシージュヨ (Abronia montecristoi) やティンボ (Atropoides nummifer) などをあげることができる。

モンテクリスト国立公園は自然の美しさだけでなく、自然解説や歴史的遺産の散策場所としても大変魅力的であり、宿泊施設や散策路も整備されている。同国立公園は環境天然資源省 (Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales : MARN) により、自然遺産総局を通して直接管理されている。グアテマラ、ホンジュラス側も同様の生態系を有しており、将来的には 3 か国にまたがった、ひとつのまとまりとして保護されることが望まれている。

4) ソリダリダー “Solidalidad” (ホンジュラス、ニカラグア)

ホンジュラス、ニカラグア国境を流れるココ川を挟んで、ホンジュラスにはパトゥカ国立

公園 (Parque Nacional Patuca)、ニカラグア側にはボサワス生物圏保護区 (Reserva Biosfera Bosawas)がある。

パトゥカ国立公園の面積は 2,220km² (1998 年の申請時)であり、ホンジュラス国内最大の国立公園であると同時に、リオ・プラタノ生物圏保護区 (Reserva Biosfera Rio Platano)、タワーカ・アサンニ生物圏保護区 (Reserva Biosfera Tawahka Asangni)に次いで 3 番目の面積をもった保全区域となる。ニカラグア側の約 2 万 km² のボサワス生物圏保護区と合わせると、中米では最大の保護区を形成することになる。

ホンジュラスの保護区のほとんどが山地の雲霧林帯に分布しているなかで、パトゥカ国立公園は数少ない低地の生物多様性保護区として特に重要な意味をもっている。さらに、同国立公園の大部分を占める湿潤広葉樹林は、ホンジュラス国内で最も急激に減少している森林である。ホンジュラス国内で最大の生物多様性をもっているのは、同国立公園のような、地形的変化に富んだ湿潤熱帯低地である。

同国立公園内は、ジャガーやバク、オオアリクイなど、生息に大きな面積を要する動物たちの最後の棲家となっている。

ニカラグア側のボサワス生物圏保護区は、1979 年に初めて保護区に指定され、1991 年に、サスラヤ国立公園 (Parque Nacional Saslaya)を含むボサワス国立保護区 (Reserva Nacional Bosawas)となった。ニカラグアで最初の生物圏保護区である。同保護区的面積は 1 万 9,928km² であり、国土面積の 14% を占める。更に、1 万 1,860km² の緩衝地域と生物圏保護区内に配置された 8,068km² に及ぶ 5 つの中核ゾーンをもっている。

ボサワス保護区は中米で最後に残された熱帯雨林のひとつであり、その生物多様性についてはまだほとんど知られていない。しかしその森林の中には、地域の固有種やそれに準ずる種、そして希少種が含まれているものと思われる。

同地域は、ホンジュラス側、ニカラグア側とも GTZ と TNC が援助している。

同地域のニカラグア側にあたるボサワス生物圏保護区においては、先住者と保護区管理との調整が最大の課題となっており、保護区の管理に当たっている現地の NGO では、先住者による管理計画策定等の形で、参加型の保護区管理を進めている。

5) ミスキートス諸島 “ Cayos Misquitos ” (ニカラグア)

ニカラグアの北東部アトランティコ・ノルテ県の東のカリブ海に位置する小島嶼である。世界銀行の発行した生態系地図によると、島の一部はサンゴ礁であり、周囲はカリブ海サンゴ礁起源の砂に生育するマングローブ林となっている。現地調査によって資料が入手できなかったため、Web サイトに公開されている情報を下記する。

保護区の管理計画の策定と実施に基づき、海洋と沿岸生態系を総合的に利用、維持し、同時に保護区の計画と管理手法を支える科学的調査を推進するとともに、ミスキータの文化を

その社会経済的発展のために回復し保護する。仮の管理計画には、土地所有の規制、生物多様性保全、小規模事業の開発、技術移転、そして集落の開発等の視点が含まれている。能力開発、環境教育、調査、天然資源管理、女性の組織化と土地所有については別に定める。

全体的な目的は、ミスキートス諸島の海洋保護区及び沿岸保護区において、海洋生態系及び沿岸生態系の総合的利用と維持、そして科学的調査を行うことである。

コンポーネント：

科学的、教育的調査研究

地域の社会経済的開発

環境教育

エコ・ツーリズム

全体的な目標：

- ・保護区内のウミガメ、エビ、魚類等特定の種の採取を規制する。
- ・保護区内の集落に対して適正技術を移転する。
- ・保護区内における集落共有地の制度化を支援する。
- ・保護区の資源、特に魚類の合理的利用と市場経済への参入を通して、集落の経済的収入を増加する。

6) フォンセカ湾 “Golfo de Fonseca” (エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア)

既に現地に派遣されている専門家を通して相当量の情報が収集されているため、ここでは現地調査に基づく大まかなコメントのみを記す。

エルサルバドル側のラ・ウニオン付近は汚染が激しく、周辺の民家、レストラン、そして工場等からの廃水及び生活雑廃水が流入している。砂浜は多種多様のゴミで埋まり、し尿臭がただよっている状態である。湾の西岸に位置するコンチャグア火山は保護区に指定され、特に上部は密な植生に覆われている。北岸はマングローブ林が広範囲に見られる。湾内のサカティージョ島ではエコ・ツーリズムが構想されているが、施設整備はまだ不十分である。島内には石器時代の遺跡や温泉があるが、いずれも小規模であり、森林も乾燥した疎林である。これらの天然資源がどれだけの観光客を誘致できるかは疑問である。

生態系地図によれば、ホンジュラス側の沿岸部には泥質のマングローブ林が生育し、その面積はフォンセカ湾に接する3か国のなかで最大となっている。その南東部は一部エビの養殖場として利用されている。

ニカラグア側はマングローブ林の伐採が進行し、上空から見ると裸地状になっている部分が目立つ。生態系地図においても、植生の少ない砂地が3か国のなかで最も広範囲の面積を占めている。保護区としてはボルカン・コシグイナ (Volcan Cosiguina) 自然保護区とアパクンカ (Apacunca) 遺伝資源保護区があり、ラムサール湿地に登録されているエステロ・レ

アル(Estero Real)においてマングローブの再植林が行われている。

前述したように、エルサルパドル側のフォンセカ湾は周辺の民家や工場からの未処理廃水が流入し、汚染が進んでいることがサイト視察によって確認された。現在のところこれといった公害対策はとられておらず、固形廃棄物も沿岸の山腹で野焼きされているため、それ自体が大気汚染の原因となっている。ホンジュラス側とニカラグア側においては、エビの養殖に起因する水質汚染とマングローブ林の伐採による森林消失が大きな問題である。

7) サリーナス湾 “Bahía de Salinas”(ニカラグア、コスタリカ)

コスタリカとニカラグアの太平洋岸の国境を挟んだ地域である。付近の植生は熱帯落葉広葉樹林と農耕地であり、ニカラグア側は大部分が森林となっているのに対し、コスタリカ側は、農耕地の中に点々と森林が残っている状態である。また、コスタリカ側には小規模ながらマングローブ林もある。観光開発はコスタリカにおいて進んでいるようである。以下はコスタリカのWebサイトからの引用である。

サリーナス湾はグアナカステ郡の北西部に位置し、美しい海岸と生態保護区があることで知られている。周囲にはサンタ・ロサ及びボルカン・リンコン・デ・ラ・ビエ八国立公園(Parques Nacionales Santa Rosa y Volcan Rincon de la Vieja)があり、優れた景観をもっている。庭園、プール、レストラン等の施設をもったホテルも整備されている。エコプラヤ・ビーチ・リゾートは厳重に保護された生態系のなかの保養地であり、1年を通して気温が高い。特に11月から4月にかけては最も暑い時期となり、5月から10月までは雨期となる。

8) シアパス “Siapaz”(ニカラグア、コスタリカ)

ニカラグアとコスタリカの国境を流れるサン・フアン川下流部は、中米でも最大規模の流域であり、また、最も危機に瀕した地域のひとつでもある。同地域の生態的、文化的豊かさによって、国立公園、国立野生生物レフュージア、生物保護区、森林保護区、生物回廊、そして国境両側の重要な湿地帯を含む保護区のネットワークが形成され、「平和のための国際保護区システム」(Sistema Internacional de Áreas Protegidas para la Paz : SIAPAZ)と名づけられている。この地域はニカラグアとコスタリカの政府により、両国における保護と持続可能な開発の最も重要なイニシアティブとして宣言された。

シアパス地域は、中米のカリブ海に現存する熱帯雨林の主要な部分を擁し、マナティやミドリインコ、そして野生のアーモンド等、絶滅に瀕した固有種の生息場所となっている。森林が多く残っているのは主にニカラグア側であり、コスタリカ側は海岸部及びサン・フアン川の周辺を除き、大部分が農耕地となっている。その中に森林あるいは高茎草原が点在している。

1997年のWebサイト資料によれば同地域においては、サン・フアン川のコスタリカ側沿

岸約7kmの所にあるラス・クルシータス(Las Crucitas)と呼ばれる地点で、250万オンスと言われる金の露天掘り計画があり、それによる地域生態系及び地域社会への影響が懸念されている。北米の採掘要請に対して、MINEAは2001年12月17日、住民の同意なしに採掘許可を出した。同地域における305.9haの採掘権は2002年1月16日から10年間有効であり、採掘法は露天掘り、精錬は現在環境負荷が大きいため、世界の大部分で禁止されているシアンによる浸出濾過法による(Ecoportal.net)。このような情報がWeb上に掲載されているので、その後の経緯について更に詳しく調査する必要があると考えられる。

9) ガンドカ - ボカス “Gandoca-Bocas”(コスタリカ、パナマ)

ガンドカ - マンサニョ野生生物レフュージア(Refugio Nacional de Vida Silvestre Gandoca-Manzanillo)はリモン郡のカリブ海沿岸に位置し、絶滅に瀕した種や個体数の減少した種が保全されている。また、沿岸一帯の岩礁では唯一のイタボガキの天然漁礁も保護されている。植生は熱帯雨林であり、多様な陸上生態系を有し、淡水、海水ともに多くの生息環境から成る原生林が残っている。コスタリカの大西洋岸では、この地域有数のサンゴ礁が見られる場所でもある。

ボカス・デル・トロ諸島(Archipielago Bocas del Toro)はパナマの北西部、チリキ湾の周囲に位置している。同地域は最近になって、海外にもその存在が知られるようになった。諸島の大部分は自然のままのサンゴ礁など手つかずの自然を残し、釣り、ボート、カヤック、シュノーケリング等に格好の場所となっている。ここ数年の間、一帯はツーリズムブームとなり、ボカスの町の周辺にはホテルやレストランが多数オープンした。

海と水がボカスの目玉となっているが、島の熱帯雨林にも様々な生物が生息している。大きな島にはホエザルやクモザルが生息している。ナマケモノや爬虫類、鳥類、両生類、そしてウミガメも多い。ヤドクガエルも、同地域に特徴的な生物のひとつである。

同地域においては、米国のNGOであるThe Institute for Tropical Ecology and Conservation(ITEC)が活動している。ITECの使命は野外において生態学と保全についての研修を行うことであり、ボカス・デル・トロのコロン島においてBocas del Toro Biological Stationを運営し、学生たちが長期にわたって地上、淡水、海洋生態系の研究を行うための施設を提供している。そこでは、パナマのカリブ海沿岸におけるウミガメ、熱帯雨林その他の天然資源保護のプログラムを実施し、現地の集落に対しても保全教育や環境に対するインパクトの少ない雇用機会の提供等の公共事業を通じた支援を行っている。

10) ピラ “PILA”(コスタリカ、パナマ)

コスタリカのタラマンカ山脈からパナマにかけての山岳地帯に位置し、標高3,549mのカム山、3,280mのドリカ山などの高山がある。地域の特性と二国間保全地域そして生物多様性保全の観点から、コスタリカとパナマの国境に沿った地域を対象として1982年、ラ・アミ

スター国際公園(Parque Internacional La Amistad)が設立された。コスタリカ側で19万3,929ha、パナマ側で20万7,000haの面積が保護されている。

同公園は大西洋側をチリポ(Chirripo)、タニヤ(Tanya)、テリレ(Telire)、タラマンカ(Talamanca)の先住民族による保護区、太平洋側をウジャラス(Ujarras)、サリトレ(Salitre)、そしてカバグラ(Cabagra)の保護区によって囲まれている。科学的視点からも、また保全と自然の美しさの点からも高い価値をもっていることから、1982年にはUNESCOによってラ・アミスター生物圏保護区に指定され、1983年には世界遺産に指定された。

公園内には湿潤林、雨林、雲霧林が生育している。ホールドリッジの分類によれば、公園内には7つの生物帯(Life zone)と6つの移行帯(Transition Zone)が認められる。これらの特徴から、同地域は南米と北米を結ぶ生物学的な橋として、またフィルターとしての重要性が指摘されている。そこでは様々な標高、土壌、気候そして地形条件による数多くの特異な生息場所を見ることができる。

地域の大部分を、混交林あるいは雲霧林、湿潤高木林が覆っている。そのなかには263種の両生・爬虫類、バク、ピューマ、ジャガー、オマキザル等の哺乳類、そしてタカやケツァルを含む400種の鳥類が生息している。

11)ダリエン国立公園“Parque Nacional Darien”(パナマ)

57万9,000haの面積をもつパナマ最大の国立公園である。1981年には世界自然遺産、1983年には生物圏保護区に指定された。これらの指定により、公園の保全に必要な高いレベルの保護がなされている。公園内にはエンベラ(Embera)、ワウナナ(Waunana)、そしてクナ(Kuna)という3つの民族が住んでいる。公園の一部は山岳となっており、セロ・ピレ(Cerro Pirre)、セロ・ニケ(Cerro Nique)、セロ・タカルクナ(Cerro Tacarcuna)が公園の境界付近に位置している。

公園内の熱帯雨林には、オウム、インコ、ペッカー、バク、そしてパナマの国鳥であり、世界最強の猛禽と考えられているハーピーイーグル(オウギワシ)も生息している。ダリエン国立公園はまた、口蹄疫のような伝染病に対する天然の障壁としても重要な機能をもっている。主にその理由から、国立公園内には道路が建設されず、「ダリエン・ギャップ」と呼ばれるようになった。

(2)自然環境保全重点地域における公害対策

水質汚濁は中米各国に共通する問題であり、自然環境保全と関連した問題点として第一にあげられる場合が多い。現地調査においてサイト視察の対象としたフォンセカ湾においても、水質汚濁は深刻である。

フォンセカ湾のエルサルバドル側の玄関口にあたるラ・ウニオン付近では、沿岸の民家、レ

ストラン、工場等からの廃水が処理されないまま湾内に流入し、し尿臭がしている。それに対する公害対策は特にとられていないのが現状であり、汚染された湾内の水質をどう改善するかが課題となっている。

陸水域においても、水質汚濁は大きな問題となっている。エルサルバドルのラムサール湿地に指定されているホコタル沼においては、流入する河川が洗濯場となっており、洗剤を含んで白濁した水が、沼の中に流入している。同地域ではまた、地域の婦人団体によって川を利用した便所の設置が進められ、汚染を更に進行させる原因となっていた。その便所については婦人団体と市、そして NGO との話し合いのなかで廃止されることになったが、その結果地域の住民たちは野外に排便することを強いられており、そのような現状をどう改善するかが課題となっている。

大気汚染については、都市部では多くの場所で問題となっているが、自然環境保全の重点地域においてはまだ深刻化している状態ではない。しかし、観光開発の進行している地域において、今後大気汚染の問題が生じてくる事態も考えられるので、動向を慎重に見守っていく必要がある。

廃棄物処理も各地で大きな問題となっている。フォンセカ湾では砂浜に各種のゴミが散乱している状態である。ホコタル沼の周囲も、紙ゴミやプラスチックゴミ、ポリエチレン袋が山積みとなり、家畜の糞や人糞が散乱している。ゴミ収集と処理のシステム、放牧家畜対策、そして環境負荷の小さい便所の設置を含めた衛生環境の整備を、早急に進めることが課題である。

保全区域内における水処理と廃棄物処理に関して、ニカラグアのボルカン・モンバチヨ保護区では数々の興味深い取り組みが行われており、ひとつのモデルケースとして注目される。同保護区は、モンバチヨ火山の標高 800m から上の一帯が対象となっている。保護区内には 20 人ほどが収容できるビジターセンターが建設されているが、ここでは、生ゴミはコンポスト化され、廃水は浄化槽による処理がなされている。便所はオガクズを使用することにより、水を使わなくともほとんど臭気の無い清潔な状態に保たれている。同保護区は環境省から委託された NGO の COSIBOLCA が管理に当たっている。サイト視察を行ったなかでは最も厳しい条件下にありながら、先進的な公害対策によって周囲の自然環境保全と快適な滞在を可能にしているという点で、特筆すべきものがある。